

## 社会科学習指導案

- 1 単元名 国際社会と世界平和
- 2 単元観

○ 我が国は、過去の戦争の反省から日本国憲法に平和主義を掲げ、世界平和と人類の福祉の増大を実現すべく国連の活動支援、核軍縮、国際貢献など国際社会に働きかけを行ってきた。こうした努力の結果、我が国は戦後、多くの国々と友好を深め、国際社会の一員としての地位を築きあげてきた。

しかし一方で、我が国固有の領土である北方領土や竹島に係る未解決の問題や北朝鮮の拉致問題、尖閣諸島をめぐる情勢など近隣諸国との間で真の友好関係を構築するために解決すべき課題は多い。

多様に変化を続ける現代社会の中で国際社会は新たな問題に次々と直面している。グローバル社会の中で世界各国が足並みを揃え、相互に協力して解決すべき課題は山積している。これら課題の解決には世界各国が友好関係を築き、より強固な世界の枠組みを構築することが不可欠である。そのためには、各国が互いに対等な立場で国家主権を尊重しあうことや国際法を遵守することが前提となる。

このことを踏まえ、国際社会に対する理解を深めさせ、国際社会における我が国の役割について考えさせるとともに、人類の一員としてよりよい社会を築いていくために解決しなければならないさまざまな課題について探求させ、自分の考えをまとめさせることを通して、本校の教育目標である「国際社会に生きるよき日本人の育成」を図りたいと思い、本単元を設定した。

本単元では、国際社会を多角的にとらえ、平和な国際社会を主体的に築いていこうとする熱意と協力の態度を育てるとともに、人類の福祉の増大を図り、よりよい社会を築いていくために解決すべき課題について解決の日まで考え続けていこうとする態度を養うことを主なねらいとしたい。

○ 本学級の生徒は、社会的諸事象に関心を持っている生徒が多い。しかし、我が国を取り巻く国際問題について感情的な発言をしたり、国際社会を一面的に見て解決策を安易に主張する生徒が多くみられる。一方で、国際社会の情勢に関心がないために、身近なこととして捉えられず、国際社会そのものを他人事のように思っている生徒も一部みられる。

また、自分の考えを論理的に表現するのが苦手な生徒が多く、社会的諸事象の背景や発言の根拠を問うと口をつぐむ生徒がほとんどである。

したがって、国民と国家、国家と国際社会の関係に注目させて国際社会を多面的・多角的視点から考えさせ、生徒自ら主体的かつ平和的に国際社会に関わろうとする態度を養うとともに、自分の考えを論理的に考えながら整理する力や資料を読み取り根拠に基づいて自分の考えを表現する力を養う必要がある。

○ そこで本単元では、北方領土問題を題材に、討論をする場面を設定することにした。

北方領土に関する学習は、小学校5年生において北方領土問題の存在について学習している。本学級の生徒は中学1年次の地理、2年次の地理及び歴史の学習において北方領土について問題が現在に残るに至った経緯や、この問題に係り元島民の人々の熱い故郷への思い、ロシアの不法占拠によって地元の経済に及ぼす影響などを学んできた。また、3年次の1学期には社会生活において「対立」が生じた場合には、「合意」に至る努力がなされること、その際、「効率」と「公正」などの視点で「合意」の妥当性を判断していることについて学習している。これら学習の成果を踏まえ、本単元では北方領土問題の解決策について議論することを通して根拠に基づいて自分の考えを表現する力を養うとともに、国際社会における日本の役割、主権や国際法を尊重することの重要性に気づき、平和的な手段によって国際問題を解決していこうとする姿勢を身につけさせたい。

### 3 単元目標

- ア 国際社会におけるさまざまな問題に関心を持ち、その解決に向けて積極的に考えていこうとする態度を養う。
- イ 我が国の領土や主権に係る問題に着目し、その解決方法を多様な視点から考え、自分の意見として述べるができるようにする。
- ウ 国際法や主権に関する資料を読み取り、必要な情報を取捨選択して自分の意見を裏付ける根拠として受け手にわかりやすいように工夫して提示することができるようにする。
- エ 国際政治においては、国際協調の観点に基づいて国家間の対立を克服する試みがさまざまなところで行われていることを理解させる。

### 4 指導計画（全 10 時間）

- |                  |               |
|------------------|---------------|
| (1) 地球のさまざまな姿    | 1 時間          |
| (2) 国際社会における国家   | 5 時間          |
| ① 主権国家と国際法       | (1 時間)        |
| ② 日本の領土をめぐる問題    | (1 時間)        |
| ③ 北方領土問題について考えよう | 本時 (3 / 3 時間) |
| (3) 国際連合のしくみと働き  | 1 時間          |
| (4) 地域主義の動き      | 1 時間          |
| (5) 新しい戦争        | 1 時間          |
| (6) 世界の平和のために    | 1 時間          |

### 5 本時の学習指導

- (1) 題材 「北方領土問題について考えよう」
- (2) 目標

- ア 国家主権や国際法を守り、平和的に国際問題を解決しようとする態度を身につける。
- イ 北方領土問題の解決に向けて自分の考えを表現することができるようにする。
- ウ 北方領土問題について、我が国が平和的に解決をしようと長年にわたり努力をしてきたことを交流事業の事例を基に理解させる。

#### (3) 下位目標と評価方法

- ア① 前時までの学習を振り返り、本時の学習に見通しをもって取り組もうとする。⇒行動観察<記録に残さない評価>
- ア② 主権や国際法を守り、平和な国際社会を築きあげようという思いを持つ。  
⇒発言内容、ワークシート記述分析<記録に残す評価>
- ア③ 北方領土の返還について、その平和的解決に向けて努力を続けようという思いを持つ。⇒ワークシート記述分析<記録に残す評価>
- イ① 北方領土問題の解決に向けて自分の考えを発表したり記述することができる。⇒発言内容、ワークシート記述分析<記録に残す評価>
- ウ① 北方領土問題は平和的な解決に向けて長年努力が続けられていること及び、領土返還が実現する日までこれからも努力を続けなければならないことを理解することができる。⇒ワークシート記述分析<記録に残す評価>
- ウ② 北方領土問題の解決に向けて自分たちの身近なところでできることがあることを理解することができる。⇒行動観察<記録に残さない評価>

(4) 学習の展開

過程	目標	生徒の学習活動	教師の支援	評価及び評価材
導入	ア①	1.北方領土の返還要求のあり方についてさまざまな意見があることを確認する	・北方領土のライブカメラを見せて関心を持たせる	・本時の授業に対して見通しをもつことができたか
5分	ア①	2.討論の論題を確認する  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">                     テーマ                      北方領土は四島同時に返還するよう求めるべきである                 </div>	・討論の手順を確認し、論題を板書する	
展開	イ①	3.論題についてディベートをする ①肯定側立論 3分 ②否定側立論 3分 ③作戦タイム 5分 ④否定側質疑 4分 ⑤肯定側質疑 4分 ⑥作戦タイム 4分 ⑦否定側反駁 2分 ⑧肯定側反駁 2分	・前時に資料を調べさせ、ある程度の論点をまとめさせておく ・発表の内容について、その根拠となる資料を提示できるように助言する ・発表は事実に即して行わせ、事実でないものは、疑わしいものを含めて訂正、補足を加える ・他者の意見をよく聞かせ、納得した点や、疑問に思った点についてはメモを取らせる ・審判の生徒に、判定を出させる	・事前に十分な資料を収集し 論じようとしている論点を 明確に絞り込んでいるか ⇒ワークシート1、2、主張カード ・根拠に基づいて解りやすく発表できたか ⇒発言内容 ・北方領土の返還要求のあり方について自分なりの意見を持ち、まとめることができたか ⇒ワークシート3
40分	ア② ア③	4.ディベートの内容を踏まえて北方領土の返還について自分の意見をワークシートにまとめる	・審判に結果を発表させ、判定の根拠を発表させる	
5分	ア③ ウ① ウ②	6.北方領土の問題について我が国が平和的な解決に向けて努力をしていることを知る	・ディベートの勝敗が即、議論として正しい、正しくないということにつながることを押さえ、次のことを考えさせる ①相互の主権を尊重すること ②国際法を尊重すること ③平和的な解決に向けて努力を続けること	・一公民として積極的に社会に関わるために、何ができるかを考えようとしているか ⇒ワークシート3